



ハイドロリック乾式クラッチキット（6速ミッション用）取扱説明書

商品番号	02-02-215		
適応車種	6Vモンキー / 6Vゴリラ	フレーム番号	Z50J-1300017 ~ Z50J-1805927
適応車種	12Vモンキー	フレーム番号	Z50J-2000001 ~
適応車種	12Vゴリラ	フレーム番号	Z50J-2500001 ~
適応車種	モンキー B A J A	フレーム番号	Z50J-1700001 ~
適応車種	モンキー R T	フレーム番号	AB22-1007601 ~
適応車種	モンキー R	フレーム番号	AB22-1000017 ~

ハイドロリック乾式クラッチ&6速ミッションキット（Bタイプスピンドル用）

商品番号 02-03-214

- ・この度は、TAKEGAWA 商品をお買い上げ頂きまして有り難うございます。使用の際には下記事項を遵守頂きますようお願いいたします。
- ・取り付け前には、必ずキット内容をお確かめ下さい。万一お気付きの点がございましたら、お買い上げ頂いた販売店にご相談下さい。

ご使用前に必ずお読み下さい

取扱説明書に書かれている指示を無視した使用により事故や損害が発生した場合、当社は賠償の責を一切負いかねます。

この製品を取り付け使用し、当社製品以外の部品に不具合が発生しても当社製品以外の部品の保証は、どのような事柄でも一切負いかねます。

商品を加工等された場合は、保証の対象にはなりません。

他社製品との組み合わせのお問い合わせはご遠慮下さい。

当製品は、上記適応車種、フレーム番号の車両専用用品です。他の車両には取り付け出来ませんのでご注意下さい。

長いハンドル等を御使用の場合、オイルホースが届かなくなる場合があります。

02-02-215の取り付けには、当社製6速トランスミッションキットが必要です。STD .4速及び当社5速トランスミッションでは、取り付け出来ませんのでご注意下さい。

当製品を使用するには、コンビネーションスイッチが別途必要です。

当製品の取り付けには、クランクケース分解等の作業が必要になります。上記適応車種にあったホンダ純正サービスマニュアルを必ず参照し確実に行って下さい。また、各車両の仕様に合ったガスケット（シリンダーガスケット等）、パッキン等が別途必要です。

雨天走行等でフリクションディスクに水が掛かると、クラッチの滑りが生じ、クラッチが機能しなくなる可能性があります。雨天走行は、出来る限り避け、やむを得ない場合は、水たまり等を避け、フリクションディスクに水が掛からない様に心掛けて下さい。

フリクションディスク等に水分が付着すると腐食し、クラッチの機能を果たさなくなります。雨天走行、洗車等の後には、フリクションディスク、クラッチプレート等に付着した水分を必ず拭き取り、十分に乾燥させて下さい。また、梅雨等の湿気の多い時期の保管は、フリクションディスク、クラッチプレート等の貼り付きを防ぐためクラッチを切って保管して下さい。

乾式クラッチ&クロスミッションキットでAタイプスピンドルを使用の場合、取り付けにBタイプキックスタータースピンドルキット（02-04-0011）が別途必要です。

オイルクーラーキットの取り付けには別売のオイルクーラー取り出し口（09-07-056）又は、（09-07-057）が必要です。

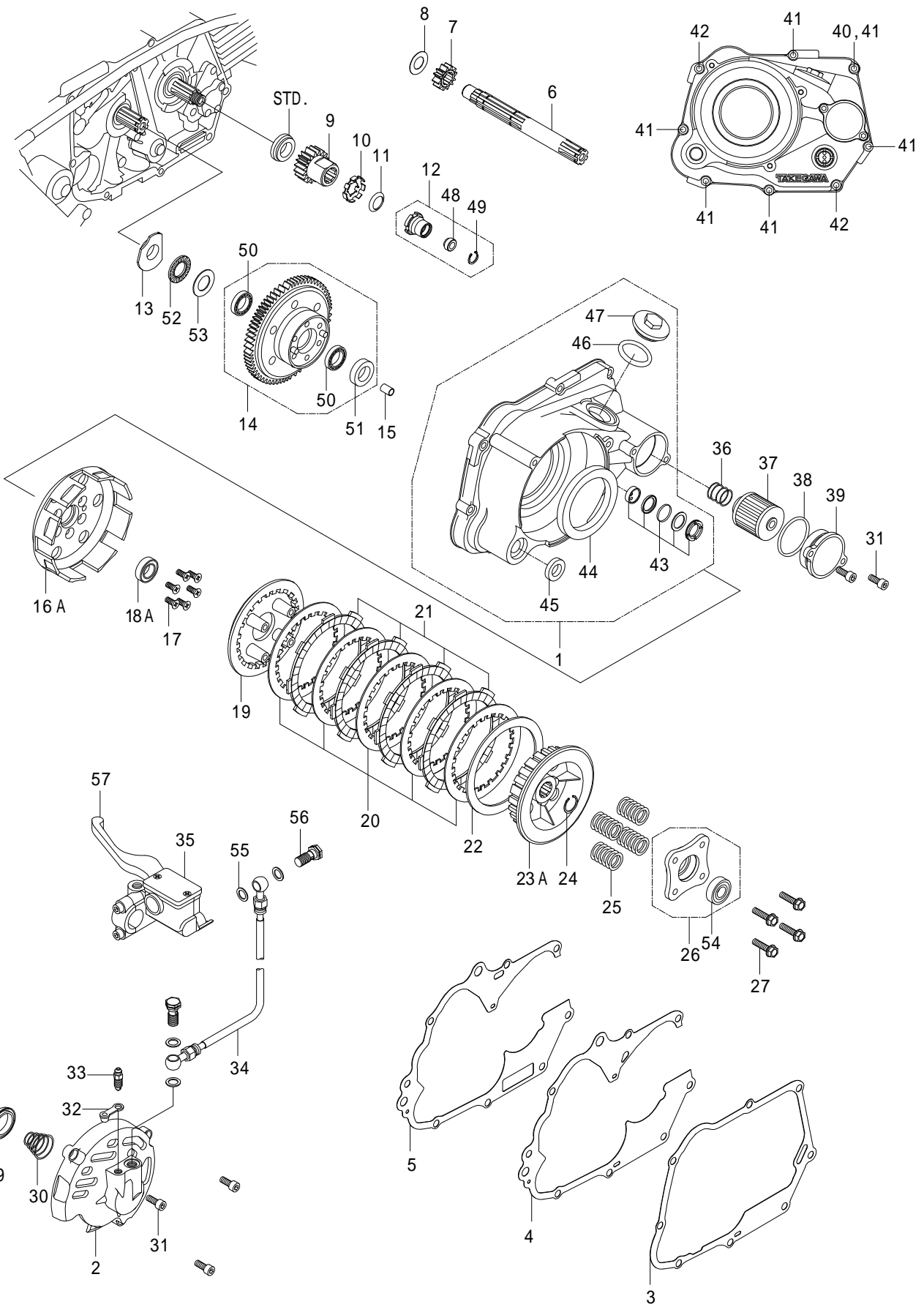
又、STDマフラー及びストリートアップマフラー（04-02-121 / 131 / 171 / 170）の取り付けは出来なくなります。



注意

下記内容を無視した取扱をすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容及び物的損害が想定される内容を示しています。

- ・一般公道では、法定速度を守り遵法運転を心掛けて下さい。
（法定速度を越える速度で走行した場合、運転者は道路交通法、速度超過違反で罰せられます。）
- ・作業等を行う際は、必ず冷間時（エンジンおよびマフラーが冷えている時）に行ってください。（火傷の原因となります。）
- ・作業を行う際は、その作業に適した工具を用意して行って下さい。（部品の破損、ケガの原因となります。）
- ・規定トルクは、必ずトルクレンチを使用し、確実に作業を行ってください。（ボルトおよびナットの破損、脱落の原因となります。）
- ・製品およびフレームには、エッジや突起がある場合があります。作業時は、手を保護して作業を行ってください。（ケガの原因となります。）
- ・走行前は、必ず各部を点検し、ネジ部等の緩みが無いかを確認し緩みが有れば規定トルクで確実に増し締めを行ってください。
（部品の脱落の原因となります。）



～ 商 品 内 容 ～

番号	部 品 名	個数	番号	部 品 名	個数
1	R.クランクケースカバーCOMP.	1	3 1	ソケットキャップスクリュー 6 × 1 5	5
2	ハイドロリッククラッチカバー	1	3 2	ブリーダーキャップ	1
3	R.クランクケースカバーガスケット	1	3 3	ブリーダースクリュー	1
4	クランクケースカバーガスケット(6 V)	1	3 4	クラッチホース	1
5	クランクケースカバーガスケット(1 2 V)	1	3 5	L.マスターシリンダーASSY.	1
6	メインシャフト	1	3 6	オイルフィルタースプリング	1
7	M 1ギヤ 1 3 T	1	3 7	オイルフィルター	1
8	スラストワッシャ 1 4 mm	1	3 8	Oリング	1
9	プライマリードライブギヤ	1	3 9	オイルフィルターカバー	1
1 0	ロックワッシャ	1	4 0	ソケットキャップスクリュー 6 × 7 0	1
1 1	コニカルスプリングワッシャ	1	4 1	ソケットキャップスクリュー 6 × 2 5	6
1 2	ロックナットCOMP.	1	4 2	ソケットキャップスクリュー 6 × 3 0	2
1 3	ベアリングシート	1	4 3	オイルポットCOMP.	1
1 4	プライマリードライブギヤCOMP.	1	4 4	オイルシール 6 0 × 8 0 × 8	1
1 5	ノックピン	2	4 5	オイルシール 1 3.8 × 2 4 × 5	1
1 6 A	クラッチアウター	1	4 6	Oリング 3 0 mm	1
1 7	フラットヘッドスクリュー 6 × 1 5	6	4 7	ホールキャップ	1
1 8 A	シールベアリング 6 9 0 3	1	4 8	オイルシール 6 × 1 3 × 5	1
1 9	クラッチプレッシャープレート	1	4 9	Cリング 1 3 mm	1
2 0	クラッチプレート	5	5 0	ラジアルボールベアリング 6 8 0 3	2
2 1	クラッチフリクションディスク	4	5 1	オイルシール 1 7 × 2 8 × 7	1
2 2	クラッチプレートB	1	5 2	スラストベアリング	1
2 3 A	クラッチセンター	1	5 3	スラストワッシャ	1
2 4	エキスタースターナルサークリップ	1	5 4	シールドベアリング 6 0 0 1	1
2 5	クラッチスプリング	4	5 5	シーリングワッシャ	4
2 6	クラッチリフタープレートCOMP.	1	5 6	バンジョーボルト 1 0 × 1.2 5	2
2 7	フランジ六角ボルト 6 × 2 2	4	5 7	クラッチレバー	1
2 8	クラッチリリースピストンCOMP.	1	5 8	タイラップ 2 0 0 mm	1
2 9	ピストンシール	1	5 9	プレーキフルード BF - 4 (2 0 0 c c)	1
3 0	クラッチリリーススプリング	1	TOOL	六角棒スパナ 5 mm	1

乾式&クロスミッションキットの場合、クロスミッションは、すでに組み付けられています。使用しない部品や重複する部品は省いています。
乾式&クロスミッションでクロスミッションのリペアパーツをご要望の場合は、メインシャフト、M 1ギヤは、当説明書の部品番号を使用し、その他の部品は、クロスミッションの説明書の部品番号を使用して下さい。



警告

下記内容を無視した取扱をすると、人が死亡したり重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

- ・技術・知識等が無い方は、作業を行わないで下さい。(部品破損等の原因により、転倒・事故につながる恐れがあります。)
- ・乾式クラッチは、クラッチアウト等回転部分がカバーの隙間から触れることができます。エンジン回転中は絶対に覗き込んだり、触れたりしないで下さい。又、車両に乗られる場合は、足等を保護し、クラッチの回転部分に巻き込まれないような服装をして下さい。(転倒等の事故、ケガ、火傷の原因となります。)
- ・エンジンを回転させる場合は、必ず換気の良い場所で行って下さい。密閉した様な場所では、エンジンを始動させないで下さい。(一酸化炭素中毒になる恐れがあります。)
- ・STDマフラー、UPマフラーを御使用の場合、オイルホースが干渉しないよう(20~30mm以上の隙間は確保する。)にホースを取り回して下さい。(事故の原因となります。)
- ・走行中、異常が発生した場合は、直ちに車両を安全な場所に停止させ、走行を中止して下さい。(事故につながる恐れがあります。)
- ・作業を行う際は、水平な場所で車両を安定させ安全に作業を行って下さい。(作業中に車両が倒れてケガをする恐れがあります。)
- ・点検、整備は、取扱説明書又は、サービスマニュアル等の点検方法、要領を守り、正しく行って下さい。(不適当な点検整備は、事故につながる恐れがあります。)
- ・点検、整備等を行った際、損傷部品が見つければ、その部品を再使用する事は避け損傷部品の交換を行って下さい。(そのまま使用すると事故につながる恐れがあります。)
- ・ガソリンは、非常に引火しやすい為、一切の火気を避け燃えやすい物が周りに無い事を確認して下さい。又、気化したガソリンの滞留は、爆発等の危険性がある為、換気の良い場所で作業を行って下さい。

性能アップ、デザイン変更、コストアップ等で商品および価格は予告無く変更されます。あらかじめご了承下さい。

クレームについては、商品の材料および加工に欠陥があると認められた商品に対しては、商品お買い上げ後1ヶ月以内を限度として、修理又は交換させて頂きます。但し、正しい取り付け、使用方法など守られていない場合は、この限りではありません。修理又は交換等にかかる一切の費用は対象となりません。

この取扱説明書は、本商品を破棄されるまで保管下さいます様お願い致します。

~ 特 徴 ~

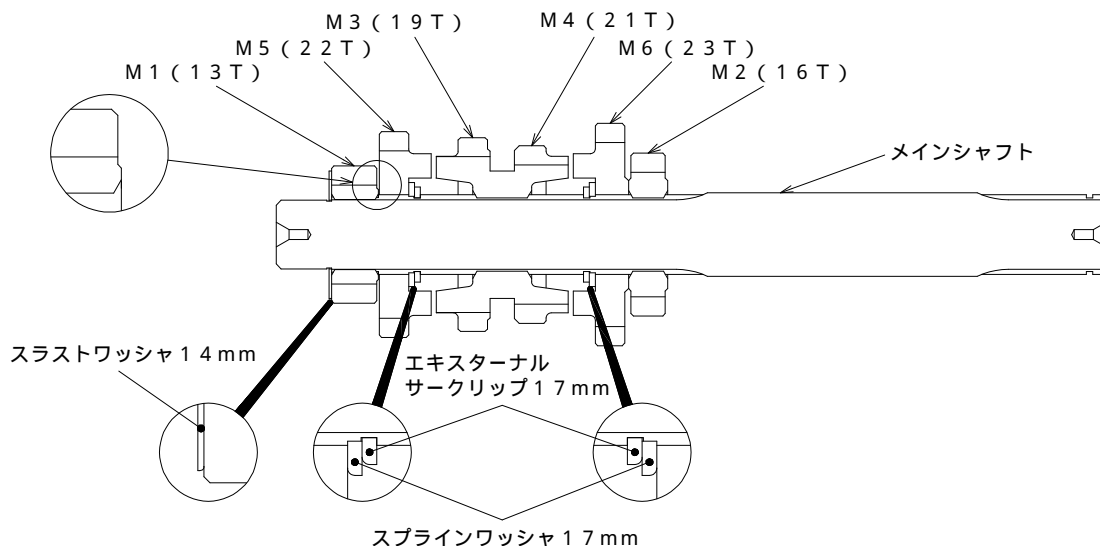
- ・クラッチ本体をトランスミッションメインシャフトに取り付ける為クランクシャフトのフリクションロスが低減しクランクシャフトの耐久性とスロットルレスポンスを向上させます。
- ・クラッチ部分が外部にある為、冷却効果に優れオイルの抵抗を受けないのでクラッチの切れが向上します。又、クラッチディスクの摩耗、発熱等によるオイルの劣化を防止しエンジンに与える影響を低減させています。
- ・フリクションディスク数を4枚としハイパワーエンジンに対応させています。
- ・プライマリードリブンギヤにはダンパーを組み込みクラッチ接続時のショックの低減を図っております。
- ・ペーパータイプのオイルフィルターを採用しエンジンオイルのろ過性能を向上させ、オイル量点検用にオイル窓を採用しております。
- ・クラッチリリース方式を油圧方式にする事により、クラッチ操作のレスポンスが良くなり、操作性が向上します。

~ 取 り 付 け 要 領 ~

セット内容をご確認下さい。

(乾式クラッチキットの場合)

1. 車両をメンテナンススタンド等で安定させ、サービスマニュアルを参考にエンジンを降ろします。
2. 取り外したエンジンを台等で安定させ、サービスマニュアルを参考にクランクケースを分解し、トランスミッションを取り出します。
3. トランスミッションのメインシャフトを湿式用から乾式用に交換します。
各ギヤの取り付け方向に注意して下さい。M1ギヤは、突起のある面をM5ギヤ側に向けて取り付けして下さい。



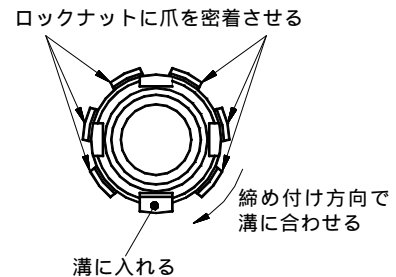
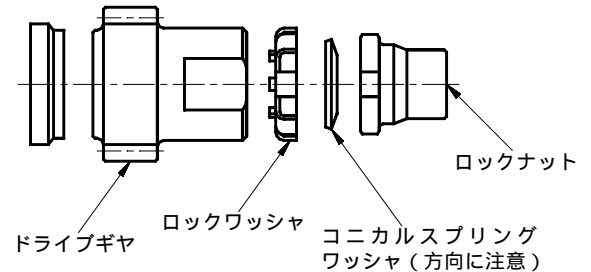
- トランスミッションをクランクケースに組み込み、クランクケースガスケットを新品に交換し、クランクケースを組み付けます。
メインシャフト1STギヤとクランクケースの間にスラストワッシャ14mmが入っているトランスミッションを使用していた場合は、スラストワッシャ14mmを新品に交換し、スラストワッシャ14mmが入っていないトランスミッションを使用していた場合は、スラストワッシャ14mmを入れて下さい。
- クランクケースを分解するために外した部品をホンダ純正サービスマニュアルを参照しその手順に従って取り付けます。
この時クランクシャフト、トランスミッションメインシャフトに部品がついていない状態にしておきます。

(乾式クラッチ&クロスミッションキットの場合)

- 車両をメンテナンススタンド等で安定させ、サービスマニュアルを参考にフレームからエンジンを降ろします。
- 取り外したエンジンを台等で安定させ、サービスマニュアルを参考にクランクケースを分解し、トランスミッションを取り出します。
- 6速クロスミッションキットの説明書を参考にトランスミッションをクランクケースに組み込み、クランクケースガスケットを新品に交換し、クランクケースを組み付けます。
- クランクケースを分解するために外した部品をホンダ純正サービスマニュアルを参照しその手順に従って取り付けます。
この時クランクシャフト、トランスミッションメインシャフトに部品がついていない状態にしておきます。

(プライマリーギヤの組み付け)

- クランクシャフトにSTDのカラーを入れ、次にプライマリドライブギヤ、ロックワッシャ、コニカルスプリングワッシャの順に入れ、オイルシール部にグリスを塗布したロックナットで仮締めします。
ロックワッシャ、コニカルスプリングワッシャの方向に注意して下さい。
- トランスミッションメインシャフトにクラッチベアリングシートを差し込みます。
(ベアリングシートの突起部分がクランクケースに引っ掛かり回転しないようにして下さい。)
そして、メインシャフトにスラストベアリング、スラストワッシャの順に差し込みます。
- プライマリドリブギヤCOMPのボールベアリング部にエンジンオイルをオイルシール部にグリスを塗布し、メインシャフトに差し込みます。
プライマリドリブギヤCOMPに付いている保護テープを剥がし、粘着あとをシンナー等で拭き取った後、薄くグリスを塗布して下さい。
- クランクシャフトの回り止めをした状態でロックナットを指定トルクで締め付けます。
 $T = 39 \text{ N} \cdot \text{m} (4.0 \text{ kgf} \cdot \text{m})$
ロックナットを指定トルクで締め付けた後、ロックワッシャの爪がロックナットの溝に合わないときは、ロックナットを締め付け方向に回して合わせて下さい。
残りのロックワッシャの爪は、ロックナットに完全に密着させて下さい。



(R.クランクケースカバー取り付け)

- ケース合わせ面を脱脂し、付属のノックピン2本とR.クランクケースカバーガスケットをクランクケースに取り付けます。
R.クランクケースカバーCOMPのオイルシール部にグリスを塗布します。
- R.クランクケースカバーCOMPのオイルシールとロックナットのオイルシールを傷つけないようにメインシャフトに対してまっすぐにケースを入れます。キャップスクルーでクランクケースに仮締めし、ケース中央から外側へと対角に指定トルクで締め付けます。
 $T = 10 \text{ N} \cdot \text{m} (1.0 \text{ kgf} \cdot \text{m})$
R.クランクケースカバーCOMPのオイルシールがめくれあがってしまう事がありますので、めくれないように注意してケースを取り付けて下さい。

(クラッチ取り付け)

- メインシャフト部にクラッチアウターCOMPを入れフラットヘッドスクルーで仮止めをした後に対角方向に指定トルクで締め付けます。
 $T = 10 \text{ N} \cdot \text{m} (1.0 \text{ kgf} \cdot \text{m})$
- メインシャフト部にシールベアリングを取り付けます。

3. クラッチセンターにクラッチプレートBを入れ、次にクラッチプレート、クラッチフリクションディスクの順で交互に取り付け、クラッチプレッシャープレートを取り付けます。
クラッチプレートに油分が残っていると滑りの原因となるので、よく脱脂して下さい。
クラッチセンターとクラッチプレッシャープレートがかみ合っている事を確認して下さい。
4. クラッチプレッシャープレートのボス部を持ち、クラッチフリクションディスクの突起部とクラッチアウトの溝を合わせ同時にクラッチセンターとメインシャフトのスプラインを合わせて挿入します。
5. 付属のエキスターナルサークリップをメインシャフトの溝部に取り付けます。サークリップは、角のある方を外側にして下さい。
エキスターナルサークリップは、必要以上に広げないで下さい。
エキスターナルサークリップがメインシャフトの溝部に入りにくい場合は、メインシャフトをニードルノーズプライヤー等で引っ張りながら作業を行って下さい。
6. クラッチプレッシャープレートのボス部分にクラッチスプリングを取り付けます。
7. クラッチリフタープレートのベアリング面を外側にしてフランジ6角ボルトを取り付け、手でいっぱいまで締め付けます。クラッチリフタープレートを手前に引っ張りフリクションディスクに隙間が出来るときは、クラッチセンターとクラッチプレッシャープレートの噛み合わせがずれていますので、クラッチリフタープレートを少しだけ左右に回転させクラッチセンターとクラッチプレッシャープレートを噛み合わせます。噛み合った状態で、クラッチリフタープレートを手前に引っ張りながらフランジ6角ボルトを対角に徐々に締め付け、最後に指定トルクで締め付けます。
 $T = 10 \text{ N} \cdot \text{m} (1.0 \text{ kgf} \cdot \text{m})$
クラッチスプリングがずれない様に作業して下さい。

(オイルフィルターカバーの取り付け)

1. R .クランクケースカバーにオイルフィルタースプリングを入れ(ケースのボス部分にはまるように入れて下さい。) オイルフィルターを入れ、オイルフィルターカバーをキャップスクリューで指定トルクで締め付けます。
 $T = 10 \text{ N} \cdot \text{m} (1.0 \text{ kgf} \cdot \text{m})$
オイルフィルターがオイルフィルターカバーの突起部にささるようにして下さい。
オイルフィルタースプリングが、オイルフィルターの突起部内側に収まらなるとオイルフィルターカバーとR .クランクケースカバーCOMP .との間に隙間が生じます。
オイルフィルター交換時は、Oリングの当たり面およびオイルフィルターカバーのオイルを拭き取りOリング部に薄くグリスを塗布します。
2. エンジンを降ろすときに取り外した部品を、ホンダ純正サービスマニュアルを参照しその手順に従って取り付けます。
3. ホンダ純正サービスマニュアルを参照し、エンジンを取り外した時と逆手順でエンジンをフレームに取り付けます。

(クラッチホースの取り付け)

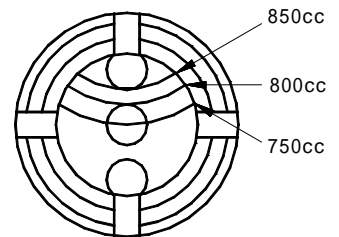
1. クラッチリリースピストンの突起部にクラッチリリーススプリングを取り付け、クラッチリリーススプリング側からハイドロリッククラッチカバーのシリンダー部にはめ込みます。
ピストンシール、ハイドロリッククラッチカバーのシリンダー内側にプレーキフルードもしくはラバーグリスを必ず塗布して下さい。
2. ハイドロリッククラッチカバーをR .クランクケースカバーにしっかりとめ込みソケットキャップスクリューで仮締めし、指定トルクで締め付けます。
 $T = 10 \text{ N} \cdot \text{m} (1.0 \text{ kgf} \cdot \text{m})$
3. ハイドロリッククラッチカバーにブリーダーキャップを取り付けたブリーダースクリューを取り付けます。
 $T = 5 \text{ N} \cdot \text{m} (0.5 \text{ kgf} \cdot \text{m})$
4. L .マスターシリンダーをハンドルにソケットキャップスクリューで取り付け、指定トルクで締め付けます。
 $T = 10 \text{ N} \cdot \text{m} (1.0 \text{ kgf} \cdot \text{m})$
5. ハイドロリッククラッチカバーのザグリ部分にシーリングワッシャ、クラッチホースエンドのバンジョー部分、シーリングワッシャの順に置きバンジョーボルトを手で仮締めし、クラッチホースをL .マスターシリンダーまで取り回し、シーリングワッシャ、クラッチホースエンドのバンジョー部分、シーリングワッシャの順にバンジョーボルトで取り付けます。位置が決まれば、バンジョーボルトを指定トルクで締め付けます。
 $T = 13.5 \text{ N} \cdot \text{m} (1.4 \text{ kgf} \cdot \text{m})$

(クラッチ液の注入)

1. L マスターシリンダーのリザーバキャップを取り外し、ブリーダースクリュー、バンジョーボルトが締め付けられていることを確認し、L マスターシリンダーのリザーバの上限レベルまでクラッチ液を注入し、クラッチレバーを操作し、クラッチシステム内にクラッチ液を満たします。
この操作をリザーバ内のプライマリポートから気泡が出なくなるまで(クラッチレバーに重みを感じるまで)行います。
化学変化を防止するため、異なった銘柄の液を混入させないこと。
クラッチ液は、塗装面を損傷させるので部品類に付着させないこと。
2. ブリーダースクリューにビニールチューブを取り付け、クラッチレバー先端がハンドルグリップに当たるまで握り、ブリーダースクリューを約1/2回転ゆるめ、再び締めます。クラッチレバーをゆっくり放し、完全に戻ったらそのまま数秒間放置します。ビニールチューブから気泡が出なくなるまでこの操作を繰り返します。
3. エア抜きが終了したら、クラッチ液をリザーバの上限レベルまで補給し、ダイヤフラム、リザーバキャップを取り付けます。ブリーダースクリューの締め付けトルクを確認します。

(組み付け後)

1. ドレンボルト{ $T = 21.5 \text{ N} \cdot \text{m} (2.2 \text{ kgf} \cdot \text{m})$ }が締め付けてある事を確認した後、エンジンオイルを800cc注入しホールキャップにOリングを取り付け指定トルクで締め付けます。
 $T = 12 \text{ N} \cdot \text{m} (1.2 \text{ kgf} \cdot \text{m})$
ホールキャップのOリングに少量のエンジンオイルを塗布して下さい。
クランクケース分解作業を伴わない場合(オイル交換等)は、エンジンオイルを750cc注入して下さい。
2. エンジン停止状態でトランスミッションを1速にシフトしクラッチレバーを握ります。車両を動かした際リヤホイールが回転しクラッチレバーを放した状態でリヤホイールが回転しないことを確認して下さい。
3. トランスミッションがニュートラル状態でエンジンを始動し、各部のオイル漏れを点検します。
異常が無ければ安全な場所で低速度の走行テストを行いクラッチの作動を確認して下さい。



クランクケース分解時での目安

SPECIAL PARTS TAKEGAWA

〒584-0069 大阪府富田林市錦織東三丁目5番16号

TEL 0721 25 1357

FAX 0721-24-5059

お問い合わせ専用ダイヤル 0721 25 8857

URL <http://www.takegawa.co.jp>